

自身が率いる英国の名門と共に、山田和樹が横浜に帰還 ヴァン・クライバーンコンクール優勝、英グラモフォン賞受賞の 韓国の新星、イム・ユンチャンとの共演も

バーミンガム市交響楽団(CBSO)の魅力は、輝かしくも親しみやすく開放感と自発性に溢れる音楽、そして世界最高の先見の明であろう。サー・サイモン・ラトル、アンドリス・ネルソンス、ミルガ・グラジニーテ=ティエラ… それぞれ時代の寵児とも言える面々がキャリアの比較的初期に務めてきたのが、CBSOのシェフの座である。そして今、そのポジションに選ばれているのが山田和樹であることに胸の高鳴りを抑えられないのは、筆者だけではないはずだ。

山田和樹とCBSOは2023年も横浜に登場したが、楽団の地力を存分に解放させた上で、ここぞという時には驚くほどの膂力で団員を導く山田和樹の指揮と、それに応えるバーミンガム市響によって奏でられる音楽の、なんと楽しいことか!「彼らといるとき、僕は世界一幸せ」と語る山田和樹だが、オーケストラ側も全く同じ思いであることが、彼ららしくストレートに音に乗る。まさに相思相愛、理想的なコンビである。

さらに今回は気鋭イム・ユンチャンとの共演も注目だ。若手の登竜門ヴァン・クライバーン・コンクールで優勝を飾り、英グラモフォン賞2024「ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」にも輝いたことで一気に世界の注目を集めるようになった彼の魅力は、尋常ならざる技術に裏付けされた、気取ることのないストレートな表現、そして爆発力。どの角度から見ても山田和樹×バーミンガム市響との相性が抜群に良さそうだ。お互いの音楽を思えば、この共演の実現はむしろ必然的なものなのであろう。

今回の来日で、山田和樹が手兵&名手とどんな音楽を奏でるのか。そして、彼のこの先にどんな未来が待っているのか。それを見守れる私たちもまた、幸せである。

山田和樹(指揮) Kazuki Yamada, Conductor

2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、BBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。その後、パリ管弦楽団を指揮して以来、幅広く活躍している。これまでにスイス・ロマン管弦楽団の首席客演指揮者を務め、現在はモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団首席指揮者兼アーティストティックアドバイザーを務め、2024年5月には同団音楽監督に就任。日本では東京混声合唱団、横浜シンフォニエッタの音楽監督を務め、2026年から東京芸術劇場の芸術監督に就任予定。2023年はバーミンガム市交響楽団とのBBCプロムス、ボストン交響楽団とのタンゲルウッド音楽祭でのデビュー、そして秋にはバーミンガム市交響楽団とのドイツ、スイスツアーを、2024年春にはヨーロッパ各地でコンサートを行った。また、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団への定期的な客演、ベルリン・ドイツ交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団、シカゴ交響楽団にデビュー。2023年6月にはバーミンガム市交響楽団との日本ツアーも行った。2025年6月には、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にデビューを予定している。エマニュエル・アックス、チョ・ソンジン、イザベル・ファウスト、エフゲニー・キーン、マリア・ジョアン・ピリスなどの著名なソリストと共演。教育活動にも熱心で、小澤征爾スイス国際アカデミーに毎年招かれ、バーミンガム市交響楽団のアウトリーチ・プログラムにも注力している。東京藝術大学で松尾葉子・小林研一郎に師事し、多数の受賞歴を持つ。2022年にはモナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。はだのふるさと大使。ベルリン在住。

バーミンガム市交響楽団 City of Birmingham Symphony Orchestra

バーミンガム市交響楽団(CBSO)は、イギリスを代表するオーケストラの一つである。2020年に創設100周年を迎えたCBSOはバーミンガムのシンフォニー・ホールを本拠地とし、同市やイギリス全土、および世界各地で、毎年150回以上のコンサートをを行い、世界的な名声を獲得している。また学習・参加型プログラムの運営にも携わり、質の高い音楽を届けている。1980年に当時無名だった若手指揮者、サイモン・ラトルを首席指揮者に任命。その精力的な音楽作りでラトルとCBSOは世界的に有名になった。その後、サカリ・オラモ(1998年-2008年)、アンドリス・ネルソンス(2008年-2015年)、そしてミルガ・グラジニーテ=ティエラのもとで、CBSOはさらに実績を積み重ねた。そして2024年5月より、2018年以来、首席客演指揮者を、2023年4月から首席指揮者を務める山田和樹が音楽監督に就任した。

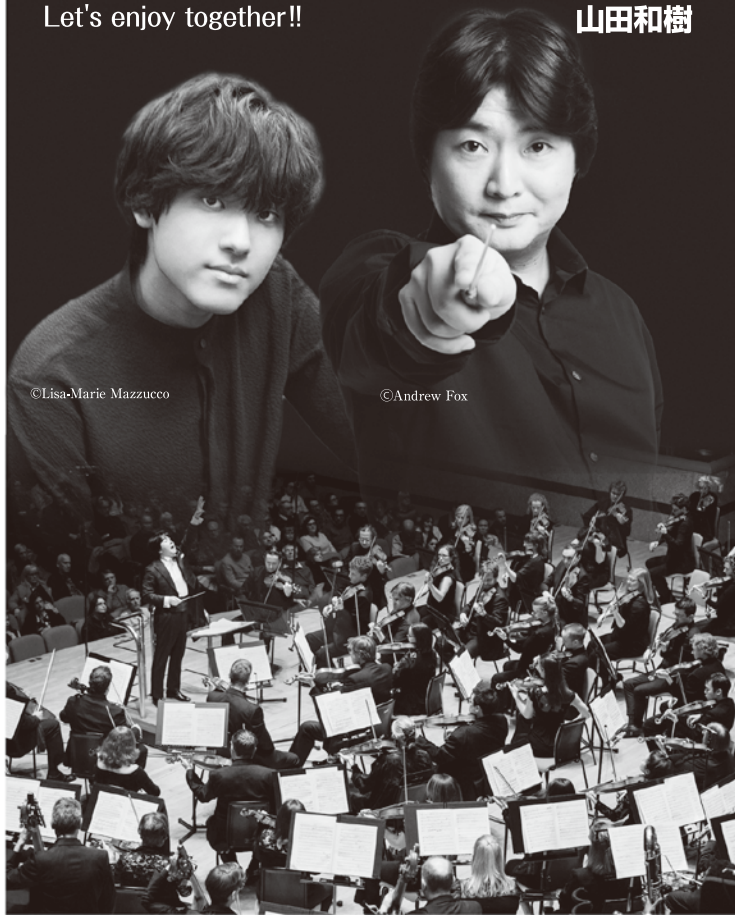
CBSOメンバーと共にまた日本ツアーができることをとても楽しみにしています!

CBSOは、本拠地バーミンガムでもそうですが、お客さんとの交流や化学反応を何よりも大事にするオーケストラです。それは、音楽を作り上げるのは演奏者だけでは不十分で、観客の存在があってこそ初めて成立するというをコロナ禍で改めて実感したからでもあります。横浜での公演でも、一期一会の独自の化学反応が生まれることを今から期待しています。

CBSOの今シーズンのテーマはズバリ「Joy!!」です。皆さんと一緒に楽しく熱い音楽を作り上げられるように頑張ります。

Let's enjoy together!!

山田和樹



©Lisa-Marie Mazzucco

©Andrew Fox

イム・ユンチャン(ピアノ) Yunchan Lim, Piano

イム・ユンチャンは2022年第16回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで最年少の18歳でゴールド・メダルを受賞し、聴衆賞と最優秀新曲演奏賞も獲得した。その演奏は「魔法のような力」と「自然で本能的な質」で世界中の聴衆を魅了した。審査委員長のマリン・アルソップは「ユンチャンは深い音楽性と驚異的なテクニックを有機的に一体化させる類稀なアーティスト」であると評した。その後、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、シカゴ響、ルツェルン響などと共演し、ウィグモア・ホール、コンセルトヘボウ、サントリー・ホール、ソウル・アーツ・センターでデビューを果たした。

2023/24シーズンには、ロイヤル・フィル、ミュンヘン・フィル、ハンガリー放送響、ボストン響、ボルティモア響、ソウル・フィル、仙台フィル、フランス放送フィル、パリ管と初共演。デッカ・クラシックス専属アーティストとして、2024年4月に初のスタジオ・アルバム「ショパン・エチュード作品10&25」をリリースし、「グラモフォン・クラシカル・ミュージック・アワード」のピアノ部門で受賞、また特別賞「若い芸術家」部門でも受賞した。また、2024年1月にはアップル・ミュージック・クラシカルのグローバル・アンバサダーに就任した。

韓国の始興市生まれで、7歳でピアノを始め、翌年にソウル・アーツ・センターの音楽アカデミーに入学した。13歳で韓国芸術英才教育院のオーディションに合格し、教師・指導者のソン・ミンスに出会う。2018年にはクレーブランド国際ピアノコンクールで2位とショパン特別賞、クーパー国際コンクールで3位と聴衆賞を受賞。2019年には最年少の15歳で韓国のユン・イサン国際コンクールで優勝し、2つの特別賞を受賞した。現在、ニューイングランド音楽院でソン・ミンスに師事している。